

評議会的評議会における

われら

吉田寮、在寮期限」決定別強

こんなもん許されへんのんじやい

去る12月4日、時計台会議室において、学内り込み斗争によってこれを粉砕した。学生部が最高議決機関である評議会が行われ、当業者で言うているように「寮生との話し合いを行ったある寮生と何ら話し合いのないまま、吉田寮廃止」というアリバイ作りには他ならぬからである。寮が決定された。怒りをこめここに別強する。

評議会に決定に至る経過

寮生の話し合い要求を無視し、こそこそ逃げま変更する意図のない、一方的通告の場にながなゆる中庭寮化プランを具体化させていった学生部長神野は、12月3、4日、学生部職員、委員（教授）を合宿させ、寮寮の具体的意志一致を行った。これに基づき、全学内1000名の団交要求署名をつきつけられた当日も（合宿からわずか吉田寮、熊野寮、同窓会、時計台、本館正門）3日後）部局長会議において廃寮を決定し、事前において全学集会を催し、会場へ向けた。このためか一週間後に評議会決定を行った。このれに対し数十名の学生部・時計台職員が我々のように全学の意志を反映させるなどは程遠い正当な抗議の声を、暴力で圧殺しようとしてきむしろ全学の音をおしださせないための、おさたのである。厚生課長（比谷）「貧乏人は大学へ来んなスピード決定であった。」

このよびな評議会決定を大衆的に粉砕すべく、**評議会は強行された**。

これまで我々は前述のように全学1000名の署名を背景に公開の場話し合いによる解決を学をつかん壁におしつたり、はてには多数の生部求めてきた。これに対し学生部は評議会職員が寮生を之階の階段の手すりにおしつた決定前日の13日、我々の要求を全く無視した上、彼らが決定した事項の「説明会」を行おうとしたのである。我々は断固これを拒否し、座暴を行ってきたのである。これによって

このよびな評議会決定を大衆的に粉砕すべく、**評議会は強行された**。

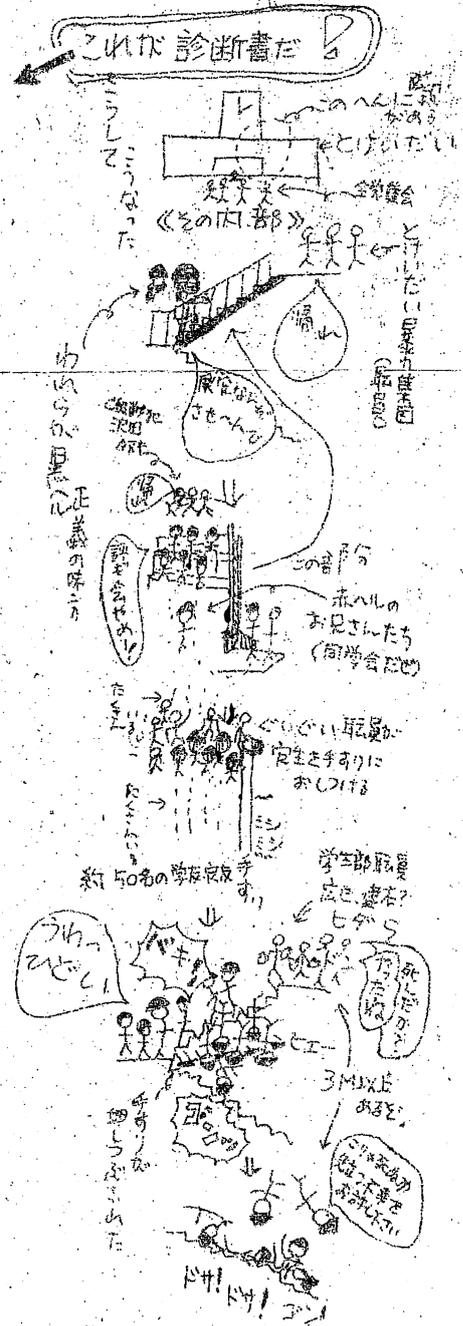
の寮生が膳の骨を折り、他の寮生も頭
 等を強打し、それ以来之週間から一ヶ
 月もの重傷を食められたのである。(一
 これに対し学生部は何らの謝罪も行っ
 ていない。)外には機動隊、内には学
 生部職員に守られ、評議会は30分とい
 うすくな審議もしないまま、吉田寮寮
 長「在寮期限」を決定したのである。
 これらの弾圧に屈せず、寮生と寮
 を支援する学生は、会議室前に座り込
 み徹底した抗議行動を貫徹した。我々
 はこのようない一方的、ペテン的、暴力
 的な評議会を、廃棄化をおしすすめる
 沢田一建本を中心とした学生部専決
 制を断固糾弾する。

学友諸君、文部官僚、国家権力によ
 って大学自治はすでに死にたえた。自
 らの手で自治を、寮の自主管理を克ち
 とるべく共に闘おう。

吉田寮自治会

12月初版(刷発行)

12月15日時計台の壁塔に於ける



診 断 書

住 所 京都府左京区吉田中阿達町28

氏 名 [Redacted] 昭和 年 月 日生

病 名 左才3腫相橋糸包有

上記に記述の病状の治癒と要りたこと証明

上記の通り診断致します

昭和 17 年 12 月 17 日

真田整形外科
 医師 真田 浩幸
 京都市左京区吉田中阿達町28
 TEL (075) 751-1055

